

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202606		
法人名	株式会社めいとケア		
事業所名	グループホームめいと中金杉		
所在地	千葉県松戸市中金杉2-72		
自己評価作成日	平成27年1月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	平成27年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、今年で開設10周年を迎えます。この10年間いろいろな機会を通じて地域との交流を大切にしていまいりましたが、次第にその成果が実を結び、今では地域と太い絆で結ばれる施設になってまいりました。毎月実施している「詩吟の会」や「物語の朗読会」は地域の高齢者の皆様によって支えられている行事であり、自治会の「秋祭り」では特等席で観覧する機会をいただいております。当事業所といたしましても、地域の皆様のご期待に応えるべく、「認知症介護ノウハウの講習会」等の講習会を開催し、認知症の理解と介護の知識の普及に努めております。当事業所は、今後もこのような地域と密着する活動に力を入れていく所存でございます。それは、当事業所の入居者様が地域に溶け込んだ毎日を送るためには、何よりも施設自体が地域の皆様に親しまれる存在でなければならないと考えるからです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の住宅地に位置し、落ち着いた環境の中にあり、経験値の高いホーム長の元、大変静かで、整然とされた雰囲気のある施設である。開設10年目ということで、施設としてやるべきことをしっかりと積み上げて来られたという感が強く、ホーム長を始め、職員の方々の地道な努力が今のホームを支えていると言える。特に理念の一つである「共同生活における楽しさの追及」というところでは、リビングルームで一緒に過ごすことを基本とされ、利用者の皆さんの穏やかな笑顔が印象的である。又、「地域との交流」においては、地域に開かれた施設であり続ける事を目標に掲げ、ホーム長自身が自治会の役員として活躍されているなど、積極的な活動を推進されている。おかげで施設自体、地域の方々に親しまれる存在となり、利用者・ご家族の方々からも、安心と信頼が寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の掲げる6つの理念のひとつに「地域に開かれた施設であり続けること」があり、職員全員がその理念を共有し、地域の方々との協力関係を大切にしている。	地域に開かれた施設として地元町内会の運営や要望に添う活動を行っている。地域との融合こそ事業所の第一義の課題として、管理者・職員は地元町内会と協働している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の代表者が地域自治会の役員として活動し、お祭りや清掃等地域の行事に参加。また、地域自治会の防災訓練にも地域の一員として参加し協力体制を築いている。	地域の日々の暮らしの中で突然の事態にも対応できるように、ホームと地域の安全を考え自治会との協力体制が築かれている。防災も訓練だけでなく、各部屋には利用者ごとの非常食の備蓄がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の特色と認知症に対する介護の手法についての講演会を開催するとともに、認知症に対する理解や支援の方法を身近に感じ取ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2か月に1回開かれる運営推進会議では毎回テーマを設け活発な意見交換がおこなわれている。構成員の貴重な意見はサービス提供に活かしている。	運営推進会議は地域包括支援センター、松戸市介護課、住民代表、入居者と家族代表等、この地域で大切な存在として多くの出席者に支えられて各回テーマを決めた話し合いをしており、中身が非常に濃い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことや困ったことが生じた場合には、躊躇することなく市の担当者に電話により相談している。	運営推進会議同様、市との連絡や相談体制が十分に機能している。行政部署のそれぞれの専門性を活用し、地域包括支援センターの情報等、事業所の安定的運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な項目については事例を挙げて学習している。徘徊防止には見守りで対応することを原則とし、玄関施錠は見守りの網が破られた場合の最後の安全弁として機能するようにしている。	事業所の立地条件は良好だが、スタッフの多様な言動による拘束が指摘されることがないよう、時間をかけてケアしている。利用者の日々の表情を鏡として支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する講習会は積極的に参加させている。介護にあたっては、利用者の「人間の尊厳」を片時も頭からなくさないことが当施設の理念であり、職員は理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は弁護士による成年後見制度を研修済みであり、個々のケースについての話し合いを通じて職員にも理解してもらえるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約締結にあたっては、契約書・重要事項説明書をもとに、納得されるまで十分に説明している。解約の条件についても明確にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の訪問時や電話等で連絡は細かく行っており、その意見・要望は絶えず運営に反映されている。市の介護相談員が月1度事業所を訪れ、各利用者とは対話しており、これが外部者への表明の場となっている。	月1回の市の担当者と利用者家族との相談が行われている。アンケート回答にも、事業所からの連絡等が日常的に行われ、意思疎通と家族の安心・感謝が多く寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・施設長は職員との対話を重視し、意見表明の場を確保している。相談に対しては、必ず、納得のいく答えを出すようにしている。よい提案については、運営に反映させている。匿名による職員の投書箱を設置している。	職員と管理者との意見交換は毎朝10時30分から行っている。職員からの発言・提案はサービスにどう反映させるか等、共に考え、発議を含めて日常会話の中で行うようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状態などは、職員の昇給・賞与に関する参考資料として代表者に提出されている。職員の普段の勤務態度が反映されるよう配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士受験資格のある職員には、資格取得のための指導・援助をしている。外部で行われる研修の参加については積極的に奨励し便宜を計っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会・認知症研修会に管理者が出席し、同業者と交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては、まず、本人の安心を確保するための関係作りに努め、その中から本人の不安や要望への生の声を聞き提供するサービスを決定している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に先立ち、ご家族から本人のこれまでの生活状況の説明を受けるとともに、施設で対応できることとご家族の協力を必要とすることを分けて説明し、その後の円滑な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居により、本人が必要としている支援を把握し、ご家族とさらに話し合ったうえで必要な支援を見極めていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、各入居者がその残存能力の活用、自立支援ということを常に心におき、入居者と職員との共同生活関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡を密にし、本人の変化に対しては、家族と連絡をとりつつ、ともに本人を支えるという関係であることを失わないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙やはがきの投函などを支援し、親戚や友人の訪問に対してはおもてなしの心で接するようにしている。	利用者へのお客様には食堂でお茶をお淹れし、運営推進会議の資料を配布する。お客様には、「こういう所に入ってよかった」と言われる事がうれしい。長時間他の利用者とも和やかな雰囲気を楽しんでおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の食堂テーブルの配置や着席位置に工夫をし、必要に応じて職員が会話の中に入り、利用者が孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者に対し、その後の様子などを電話で伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から本人の思いや意向を把握するよう努力している。連絡帳や職員の記入した業務日誌の中に書き留めて、個別の内容について共有し、引き継ぎをしている。	日々の業務日誌、月1回のモニタリングによりケアプランの見直し情報を収集。利用者の思い、意向も言葉だけではなく、表情や行動からも推測し、その情報を職員間で共有する仕組みが出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活状況は、重要な要素と捉えてご家族・担当介護支援相談員・介護にあたった職員などからの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼間は、リビングルームで過ごす人が多く、各入居者の1日の過ごし方、心身の状態は絶えず把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らす為に家族の協力が必要な場合には、家族に来てもらい、本人を交えていろいろな案を検討している。日頃のかかわりの中から職員の意見を介護計画に反映させている。	毎月行う事にしたモニタリングにより、そこで発生した意見や疑問等を共有し、ケアプランに反映出来る様にしている。家族来訪時は本人を交えた中で話し合いを行い、ご家族との共働による、より良いケアの実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には各職員が気付いた事を自由に書き込んでもらい、職員間での情報共有に活かされている。さらに管理者による実践や介護計画の見直しにも活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の変化に対応したサービスを提供することを心掛け、その時々に応じた臨機応変な対応を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読書ボランティア・詩吟の会・音楽会の定期的訪問により、心身の力を発揮しながら、豊かな暮らしを楽しむように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への利用者の受診については、定期的に健康管理を依頼することで、緊急時には迅速な治療が受けられるという利点も含めて説明し理解していただいている。	ドクターランド松戸より月2回の往診を実施しており、コールセンター24時間体制により万全な体制で対応を行っている。さらには社内看護師が状況によりフォローしている。サービス担当者会議にはDrも参加して頂いている。	かかりつけ医への受診については、ご家族でご対応頂くように移行した。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化に関しては、最新の注意を払い、介護職→管理者→看護師と連絡され、看護師の指示を受ける体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院内のソーシャルワーカーと必要に応じて連絡を取りあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時において、重度化や終末期に至った場合について一般的説明を行い、その時が近づいたときに、協力医療機関立会の下で今後の介護のあり方について十分な話し合いを行うようにしている。	食事がとれなくなった状態では経管栄養等、医療施設での看護が基本的な考え方であることを入居時には説明。しかし、いざその時に至った場合は医療機関も交え、ご家族の意向をお聞きする話し合いを行いご希望に沿った対応を行うようにしている。	医療行為を伴う看取りは出来ない事が前提となるが、あくまで利用者ご家族の意向を確認し、最良の手段を選択できる状況を作る事が重要となる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的訓練はしていないものの、緊急時対応のマニュアルはできており利用者の急変の場合には順調に機能している。事例を挙げミーティングでも話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施しており、いろいろな場面に対応した方法を検討している。夜間を想定した避難訓練も実施済み。地域自治会の防災訓練に参加し協力関係を築いている。	元消防副所長を本部スタッフに迎え、グループ施設における防災対策は万全な体制となっている。定期的に行う避難訓練でも、避難経路の確保、夜間を想定した訓練も含めて実施している。	地域に密着した施設であることから、いざという時の地域の応援は大変心強いものとして期待できる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者に話かける場合には、敬語を使うことを原則としている。また、人格の尊重と言葉かけの関わりについては、新人教育及び職員ミーティングでテーマに取り上げ勉強している。	入居者様の「個人の尊厳の保持」「これまで生きて来られた人生の尊重」という理念に表れているように、人権尊重の考え方を忘れずに介助するという職員への心得の徹底が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに耳を傾け、その希望を理解して介護にあたることの重要性を職員たちは理解しており、これを実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームは最大定員9名と少人数であり、利用者一人ひとりの生活スタイルを可能な限り尊重していくよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容については地域の美容院と連携して行っている。毎回、その人らしさを失わないように注文をしている。本人の希望があれば、美容院の椅子に座っての美容も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と一緒にとり、食事の配膳・下膳・食器洗い・収納なども利用者と職員が一緒にやっている。	共同生活における「楽しさ」を追求する場面の1つとして食事の時間を捉え、利用者と職員は一緒になってこれにあたっている。誕生日会などの催しは基本的に施設内で行うことが原則で、外で行うことは無い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は栄養士の献立を基にして調理されカロリーバランスのとれたものとなっている。食事の量は各自の状態にあわせて提供している。水分補給には細心の注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを励行。独りで歯磨きのできない利用者に対しては、歯磨き介助を行う。義歯は洗浄剤を用いて洗浄している。必要に応じて、専門家による口腔ケアを受けることができるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄サイクルおよび排泄サインを把握し、適切にトイレに誘導することで尿失禁やおむつの使用をなくすようにしている。	個人の時間を大事にする為、トイレが各部屋に設置されている事が特徴で排泄に向けた自立支援が徹底して行われている。昼間はパッドの利用で個人のサインを把握し、トイレ誘導、夜間はリハパンで、パッドの交換は職員の判断で行なう。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響については全職員が理解している。排便チェック表で確認をしながら、水分補給・ヨーグルト・牛乳など個々に応じた対応をしている。必要に応じて、看護師に相談ができる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、基本的には週2～3回のペース。本人の身体の状況をみて変更することもあり。入浴の順序の希望に応ずることはできるものの、夜間に入りたいという希望には沿っていない。	入浴時間は昼食後13:30からとし、入浴介助は自立支援を基本に見守り優先で行う。週2～3回のペースではあるが、シャワーだけであればタ方の利用を可としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が横になりたいときには、いつでも自分の居室に戻って横になれるよう職員は支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての職員が服薬の業務を担当することになっており、各利用者の服用している薬について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵を描くのが好きな人、歌を歌うのが好きな人、書道の得意な人など多彩な才能の持ち主が多く、得意なものを活かす工夫を支援している。カラオケ器を設置するなどの応援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ベランダで過ごしたり、近くを散歩したりしている。紅葉や桜見物などはマイクロバスで出かけている。各人の希望については家族に協力をお願いしている。	年2回マイクロバスで出かける紅葉見学、お花見の他に、すぐ傍に本土寺というお寺があり、初夏は紫陽花の散歩コースとなっている。又近所にあるフラワー美容室が大変喜ばれており、ウッドデッキでの外気浴も好まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を理解している方に対しては、職員は干渉せず本人に任せている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡に関しては、本人の依頼を受けて職員が連絡をとってあげるようにしている。そのうえで本人が電話口に出ることもある。ハガキ・切手等は常時購入してある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口横のミニ花壇や庭に張り出したウッドデッキなどに季節の草花を配置し季節感を演出している。リビングルームは、直射日光が入らないようレースで遮断し、BGMを流すようにしている。	冷暖房、照明、普段の共同作業で作られた作品の展示等に配慮をしている。季節や行事などを考慮した演出も手が混んでいる。ここにも、理念である共同生活における「楽しさ」の追及姿勢が伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームには、ダイニングテーブルのほか、ソファを設置し少人数で一緒に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居にあたり本人の使い慣れた品々、馴染みの家具等をお持ち頂くようお願いしている。居室には思い出の写真、趣味の絵を飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、3日分の非常食が用意されている他、トイレの設置など利用者への配慮がある。入居にあたり持ち込み品の制限はしていない。利用者本人は使い慣れたものを大事にされる傾向があるので、それらを尊重した対応と工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーになっており、廊下・トイレ・浴室などに手すりが設置されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容